

2018年度「経済的困難を抱える子どもの学び支援活動助成」 助成団体選考結果のご報告

概要

募集対象	経済的な理由により学習に困難を抱える子どもたちの意欲を高め、学習に取り組む手助けとなる団体の活動
募集期間	2018年 11月16日～2019年 1月7日
助成金総額	2,000 万円以内
応募数	67 件
対象 採択事業数	7件
金額	計 16,408,000 円（初年度）
活動期間	2019年4月1日～2022年3月31日（最大3年間）
助成選考委員会	本テーマに関して専門的知見を持つ 5名の助成選考委員（当財団理事 1 名と外部有識者 4 名）で組織する助成選考委員会にて、当財団の助成目的に基づき、厳正な審査を行った。

選考委員長より

本助成は、経済的な理由により学習環境に困難を抱える子どもたちの意欲を高め、子どもたちの学習を支援する取り組みを対象としたものです。今年度から、自立的な事業継続や新たな事業へのチャレンジのため、中長期視点で取り組む事業に対し、複数年（最大3か年）の助成を行うこととしました。

応募件数67件のうち、厳格な審査の上、複数年の計画で成果が見込まれる7団体を採択しました。3年後に目指す姿を設定していただき、その実現に向けた実行計画をお示しいただくことで、計画の実現性や発展性がより評価しやすくなりました。

応募のあった事業内容には、全体として事業内容の広がりや多様性を感じました。各団体が日々の活動の積み重ねを背景に、子どもを取り巻く課題により深く向き合った結果と捉えています。その中で3年間の事業展開が明確な団体が助成対象となりました。各団体で評価された点は、後の一覧にて述べています。

今回採択に至らなかった申請については、概ね、以下のような傾向が見られました。

- ①課題の捉え方が一般的なものとどまり、地域の状況や日々の活動を踏まえた課題認識の点で弱点がある。
- ②自団体の分析（強み、弱み）が明確でないため、課題へのアプローチの妥当性や実現性が見えにくい。
- ③実行項目と費用の関係に一貫性が読み取りにくい。
- ④本事業により実現したい目標状態に向けた、年次ごとの進捗目標（複数年のステップ）が明確でない。

どの申請も、各地域において、子どもを支え、課題解決に向けた取り組みと感じられましたが、①～④の点をご参照いただき、次回再び申請いただければと思います。

今回の採択団体は、課題解決の一つのモデルとして、他の地域での取り組みにつながっていくことを意識しておられます。当財団でも、助成を行うだけでなく、団体同士の交流会の開催や現場の視察などを通じて、情報共有・学びあい・連携を促すことで、積極的にサポートしていきたいと考えています。

公益財団法人ベネッセこども基金
理事・助成選考委員長
耳塚寛明

団体名	事業名	テーマ	初年度助成額	都道府県	選考にあたって評価された点
1 特定非営利活動法人 アスイク	居場所のない子どもたちのフリースペースの継続性・支援力を高めるための自治体との協働事業	①関係機関へのヒアリング等による今後求められる居場所のニーズ調査、及び仙台市との検討会議の開催 ②居場所の共同運営による利用者のニーズの実証 ③協働事業の運営による人材育成の取り組み ※ただし2年間	¥3,000,000	宮城県	・現在の取り組みの現状分析に基づき、自団体の課題を把握した上での申請で、よく計画されている。 ・調査から政策提言までの実現と、その取り組み結果を他団体とも共有し、モデルとなることを期待する。
2 認定特定非営利活動法人 茨城NPOセンター・コモンズ	外国籍の子と保護者が相談と学習の機会が得られる地域の支援システムを学校・行政・企業と連携して構築する	①保育を通じた親子の小学校就学準備カリキュラムの確立と各学校でできる日本語初期指導法の見える化と実際の導入支援 ②親に日本の学校の仕組みと親の役割、親自身が生活者になるための学びの場を提供し、子に、同じような境遇の子と共に日本語と母語を学び、多様な社会体験ができる場を提供 ③送迎つきのフリースクールの開設準備	¥2,200,000	茨城県	・調査や視察を経て事業を立ち上げていくスタイルが企画に安定感を感じる。 ・外国に背景を持つ子どもたちの支援を、早期から行う例は、まだ余りないため、モデル化していけることを期待する。
3 特定非営利活動法人 シェイクハンズ	生きる力を育む学びの場と尾張北部地域の子ども支援ネットワークづくり	①指導者・ボランティアによる定期的な運営会議と、それに基づく学習支援 ②経済的困難を抱えた子ども支援への理解・指導者の募集・指導向上のための研修会 ③「生きる力を育む体験＝子どもコミュニティ農園づくり」をモデル実施する。 ④尾張北部地域の子ども支援団体や困窮者支援団体、子どもの日本語支援団体等のネットワークをつくる。	¥2,340,000	愛知県	・居場所支援の中で行われる学習支援の質の向上策、子どもたちの意欲向上に着目した農園体験、他団体とのネットワーク強化などを組み合わせて、子どもの支援事業の自立的運営を目指す計画は、実現可能性と効果性の高いプランと考えられる。
4 特定非営利活動法人 寺子屋方丈舎	どの子も社会参画ができる組織基盤整備事業	①学びの環境づくり ②ボランティア・スタッフの人材育成 ③ケースワーク・ソーシャルワーク研修→現場でのワーカーを養成してゆく ※ただし②③のみ助成	¥1,458,000	福島県	・事業の枠組みを広げた申請である。ケースワーク・ソーシャルワークを視野に入れた支援、ボランティアやスタッフのキャパシティビルディングなどの取り組みが、他団体のモデルにもなることを期待する。
5 一般社団法人 栃木県若年者支援機構	学習支援教室に来ることができない子どもたちへの訪問型学習支援と学習支援人材育成事業	①訪問型学習支援活動 仕組みの確立とモデル活動実施 ②学習支援ボランティア養成研修 プログラム確立と研修の実施 ③ファンドレイズ	¥2,840,000	栃木県	・学習支援教室へ姿を現さない子どもへの支援をどうするかは共有すべき課題である。これまでの活動の蓄積を活かしたチャレンジで、3か年の計画や将来的な体制づくりも視野に入っている。 ・モデル化、政策化につなげることを期待する。
6 特定非営利活動法人 HUG for ALL	児童養護施設でくらす子どもたちの「生きる力」育成事業	①コアサービスの見直し・確立 ②ボランティアサポート本格化 ③最低限の事業運営基盤整備	¥2,570,000	東京都	・コアメンバーを有給化していく方向は、モデルとしての意義が大きい。 ・児童養護施設への訪問とタブレットによるデジタル学習を組み合わせた支援のモデルは先進的で、これまでの活動の修正能力も高く、今後の実現能力も高いと考えられる。
7 認定特定非営利活動法人 浜松NPOネットワークセンター	はままつ子どもの学び支援&セーフティネット強化事業 2019	①学習支援の検討委員会 ②アウトリーチ型学習支援 ③支援者研修の開催 ④「ほっとけない子どもの貧困」シンポジウムの開催	¥2,000,000	静岡県	・ネットワーク型中間団体としての展開が、他団体のモデルにもなることを期待する。 ・アウトリーチ型学習支援が、課題の把握と得られたノウハウの場として位置づけられており、開発的意義が明確。

【団体名】

特定非営利活動法人アスイク

【URL】

<https://asuiku.org>

【申請事業名】

居場所のない子どもたちのフリースペースの継続性・支援力を高めるための自治体との協働事業

【メッセージ】

団体の紹介

当法人は、東日本大震災後に立ち上がり、震災で浮き彫りになった子どもの貧困問題や不登校などの課題に対して、学習支援、フリースペース、こども食堂、保育園など、さまざまなつながりの場をつくってきました。

助成を受ける事業

仙台市では震災後に不登校となる小中学生が増加をつづけており、政令市の中でも3番目に高い状態になっています。また、その背景の一つには貧困問題があり、貧困世帯の子どもの不登校経験率は一般世帯と比較して約6.5倍の30.2%にも及ぶことが明らかになりました。

このような状況に対応するために、当法人では不登校・引きこもりになっている子どもたちが社会と接点をつくり直し、自己肯定感を回復し、自己決定的なキャリアを歩むキッカケを見つけるための小さなステップとして、2015年よりフリースクールを運営しています。児童相談所などの関係機関から紹介される子どもも増えており、私たちのフリースクールは地域の社会資源として認知されています。その一方で、さまざまな困難を抱えた子どもたちを受けとめるスタッフのスキル、継続的に運営していくための仕組みは課題です。

そこで私たちは、仙台市が運営する居場所事業と協働し、そのサテライト拠点としてフリースクールをリニューアル。仙台市とともに居場所を運営しながら、スタッフの人材育成を行なうことに加え、関係機関の声も聴きながらこれから必要とされる居場所のあり方を検討していくことにしました。ゆくゆくは市の施策として継続的な事業となることを目指します。今回の助成では、上記の「共同人材育成」、「居場所の運営」、「今後のあり方の調査・検討」に取組みます。

ポイントと抱負

公的な施策にしていくために必要なのは、実績です。客観的に測定できるもの、できないもの両面ありますが、延べ利用者数などまずは分かりやすい指標を達成する必要があります。そのためには、関係機関との連携関係の構築、スタッフの育成が重要となりますので、今回の助成を活用しながら、上記のポイントに注力していきたいと考えています。

【団体名】

認定特定非営利活動法人茨城NPOセンター・コモンズ

【URL】

<http://www.npocommons.org>

【申請事業名】

外国籍の子と保護者が相談と学習の機会が得られる地域の支援システムを学校・行政・企業と連携して構築する

【メッセージ】**団体の紹介**

NPO法人の設立運営支援に関する事業と合わせて、社会的排除にあいやすい人の社会参加をサポートする活動に取り組んだり、寄付文化を広める活動をしています。日系ブラジル人など外国籍住民が多い常総市で10年前から子どもの学習支援に取り組んだり、4年前の水害からの復興に取り組んだりしています。

助成を受ける事業の紹介

日本生まれの子どもが増えていますが、漢字や学習言語を習得するのが苦手な子が多います。成績が向上しにくいために進路の選択肢も限定されがちで不登校になる子どももいます。そこで就学前や日本の学校に転入する前に、日本語初期指導を行うプレスクールや放課後の学童保育を、教育委員会や学校と連携して充実させます。さらに、保護者向け日本語教室と子ども向け母語教室を新たに開き、不登校になっている子どもの居場所作りも行います。

ポイントと抱負

一人一人の子どもの学習ニーズに応じて日本語指導を計画的に行ったり、学校や家族と連携して学習しやすい環境を作っていけるよう、関係者の情報共有、交流にも力を入れています。日本でどう子どもを育てていけばいいか悩んでいる保護者と、増加する外国児童にどう教えていけばいいか悩んでいる学校、そして地域の人々をつなぐ場として、当会の拠点を多文化多世代交流拠点に育てていくことにも注力していきます。

【団体名】

特定非営利活動法人 シェイクハンズ

【URL】

<http://info@shake-hands.jp>

【申請事業名】

生きる力を育む学びの場と尾張北部地域の子ども支援ネットワークづくり

【メッセージ】**団体の紹介**

「多文化共生社会づくりに向けて、子ども達の未来を明るくする為の活動を柱に！」と、2009年にNPO法人を設立しました。以後、外国に繋がる子ども達を応援し、6年前からは「にじいろ寺子屋」を開設し、現在では外国籍ばかりでなく地域の子どもの居場所となり、60人以上の子どもが楽しく通い学んでいます。

助成を受ける事業

居場所としての一定の成果が上がってきていますが、学校の学習への対処的な支援だけでなく、内発的な学習意欲を高め、生きる力をより育むための支援が不足している現実があります。今回の助成では、これらの課題解決に向け、①コミュニティ農園を中心とした地域に根差した体験活動 ②「子ども支援」への理解促進や人材育成のための研修会等の実施をします。③またこれらを行う上で、近隣・他地域の子ども支援団体や他分野とも連携をし、情報やノウハウの共有をし、尾張北部での日常的なネットワーク形成も目指します。

ポイントと抱負

コミュニティ農園で地域の人と育てる野菜は、仲間の絆をつくり、子ども達のモチベーションを高め、収穫祭で地域の人との親交を強め、また、商業体験などへも広がり期待でき、子ども達の生きる力を育み、将来の自立に向けた一歩に繋がる事が期待できます。

また、当団体もコミュニティ農園の広がりと共に歩み、継続的な活動となるよう、強く願い、努力して参ります。

この度本助成を頂き、本当に感謝いたします。

【団体名】

特定非営利活動法人 寺子屋方丈舎

【URL】

<https://www.terakoyahoujyousha.com>

【申請事業名】

どの子ども社会参画ができる組織基盤整備事業

【メッセージ】**団体の紹介**

学校に行く子ども、行かない子どもも同じように学べる場を、子どもと一緒につくろうとしています。どの子どもも同じように学ぶことができる場です。

助成を受ける事業の紹介**ボランティア・スタッフの人材育成**

経済的に困難な子どもを支えてゆく上で大事なことは、支えるスタッフの人材の養成です。今回の助成事業を通じて、約10名の人材育成を目指しています。この人材は、現場だけではなく専門家による助言を得ることを通じて、知識の習得に努めてゆきます。ただ、一方的な学びを行うのではなく、参加者同士の相互の学び合いを通じて、深い気づきを得ることにより、スタッフが子どもの本質に触れることで支援の質を高めます。

- ・1週間に1回の「ふりかえり」を年間30回実施、毎回オンライン上で助言者から助言をもらいます。認知上の気づきを深めて、自分の行動への変化をつくり出します。
- ・毎月、活動の目標をつくり、目的を共有しながら活動ができるようにします。

ケースワーク・ソーシャルワーク研修

現場でのワーカーを養成してゆきます。自分たちにできることだけでなく、「他団体との連携によって、本人が持っている課題を解決してゆく」ための力を引き出してゆきます。

ポイントと抱負

得てして、NPOの活動は設立者の思いが強すぎて、スタッフやボランティアが、設立者の思いを実現するのを手伝う役割になりがちです。参加者も含めて、誰もが輝くことができる可能性をスタッフ、ボランティア全員が感じてもらえるような企画として実現したいです。代表は、その環境を一生懸命につくります。

【団体名】

一般社団法人栃木県若年者支援機構

【URL】

<https://www.tochigi-yso.org/>

【申請事業名】

学習支援教室に来ることができない子どもたちへの訪問型学習支援と学習支援人材育成事業

【メッセージ】

団体の紹介

一般社団法人栃木県若年者支援機構は、困難を抱える子ども、若者を連続的に、総合的に支えることを目的に2009年に設立されました。若者の支援活動としては、就労支援として中間的就労訓練の実施や相談事業、居場所活動などを行っています。子どもの支援活動としては、無料の学習支援教室（寺子屋）の運営、委託事業の生活困窮世帯の子どもの学習支援活動を行ってきました。昨年、困難を抱える子どもの、食べる、学ぶ、遊ぶ、安心をワンストップで支える拠点、キッズハウス・いろどりを、宇都宮市内に開設しました。キッズハウス・いろどりは子ども食堂、居場所プログラム、学習支援活動、外国にルーツを持つ子どもの学習支援活動を展開しています。毎日たくさん子どもたちが利用しています。このキッズハウス・いろどりは、市民の皆様からの寄付で開設、運営しています。

助成を受ける事業の紹介

栃木県の子どもの貧困の現状は全国的な状況の類に漏れず深刻です。要保護児童数は1,227人、準要保護者数9,482人で、少子化の流れにおいても高止まりが続いています（平成26年度就学援助実施状況等調査等結果）。また、子どもの学びに関わる課題として、栃木県内の小学校から高校におけるいじめの認知件数は年間4,343件、小中学校における不登校児童数は2,288人（平成27年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査結果）（栃木県）など厳しい状況が続いています。

こうした困難な状況にある子どもたちのための無料の学習支援教室（寺子屋）を団体設立時より続けてきました。その延長線上で、行政からの委託による生活困窮世帯の子どもの学習支援事業を行うことになり、関わる子どもの数が近年一気に増えました。それに伴い、子どもたちが抱える多様な、具体的な困難についても知ることが増え、その対応として支援活動の幅を広げる努力をしてきました。キッズハウス・いろどりの開設はその一つです。

しかしながら、幅が広がることで力不足も増えました。学習支援活動においてはスタッフの学習指導スキルの向上については力を入れてきましたが、学習面以外での子どもたちとの関わりについて学び、研修を行う機会を持つことはあまりできていませんでした。今後学習支援活動を子どもたちとの貴重な接点として捉え必要に応じたさらなる個別支援ができるようにスタッフの技量を向上していく必要があると感じています。

また、学習支援活動においても教室へ来ることができない子どもたちへの支援はほとんどできていません。これまでも外に出ることが難しい子どもや、学習支援教室までの距離が遠く移動に困難があり教室に来ることができない子どもたちの存在を知る機会が多々ありましたが、その支援については具体的な形を作ることができていませんでした。訪問型学習支援活動を始めることで、教室に来ることができない子どもたちの支援も開始したいと考えています。

そこで、今回の助成をいただき2つのことを実現していきます。

一つは、家庭訪問型の学習支援活動の開始です。主に不登校の小学生、中学生を対象とした、来るのを待つのではなく、出向く学習支援を形にします。相談機関やスクールソーシャルワーカーからの依頼を受け保護者の同意のもと、週1回程度自宅を訪問し勉強を行う仕組みを築きます。また、訪問を継続し関係性を築くなかで、訪問から教室（寺子屋）での学習に移行したいと希望する子どもがでれば、移行もサポートすることにも取り組みます。

もう一つは、学習支援ボランティアの数、質を高めるための研修プログラムの実施です。当法人が運営している学習支援サポートセンターとして、学習支援ボランティアスタッフ養成研修を構築していきます。従来の学習支援スタッフ／ボランティア研修から研修内の幅を広げ、学習支援スキルだけでなく相談スキルや県内の子ども支援に関わるソーシャルキャピタルについても学び、子どもたちの課題により対応していける人材を増やしていくことを目指します。研修修了者には「修了証」も発行し、現場につなげるとともに人材バンクとして数を増やしていきます。

ポイントと抱負

この事業を実現していくためには、職員だけで完結するのではなく、ボランティアの皆さんの力をあわせ、高めていくことが不可欠だと考えています。子どものために自分も何かしたいと考えている人たちにこれまでもたくさん出会ってきました。そうしたみなさんの想いや力を、この訪問型学習支援の実現にいかしていきたいと思います。そのために研修を通じて一緒に学び力を高めていきたいと思います。

また、子どもやその保護者の方へ機会を届けるためには、つながりと関係性が必要です。当法人だけではそのつながりと関係性のなかから活動を展開することは困難ですので、子どもを支援する団体や機関とも連携し、仕組みを整えていきたいと考えています。

加えて、この事業を継続的に発展的に取り組んでいくためには、財源の安定確保も必要になります。本事業へのファンドレイズにも力をいれ、こうした事業の必要性を伝えながら子どもたちの学びと成長を支えていただける協力の輪を広げていきます。

【団体名】

特定非営利活動法人HUG for ALL

【URL】

<http://hugforall.strikingly.com/>

【申請事業名】

児童養護施設でくらす子どもたちの「生きる力」育成事業

【メッセージ】**団体の紹介**

HUG for ALLは「信頼できる大人」の存在により、子どもたちの「安心できる居場所」づくりと「生きる力」を身につけるための支援を行っています。

助成を受ける事業紹介

児童養護施設は全国に約300か所存在しますが、私たちが支援できているのはまだ1施設。今後、複数施設の支援やパートナー団体の発掘等を通して、支援先を拡大していくためにも、まずはコアサービスである学習支援の価値の向上と、それらを継続的に安定して運用できる組織基盤を整備していくことを目指します。

ポイントと抱負

今年度、特に注力していきたいのは、これまでの学習支援内容・方法を柔軟に見直し、運営方法も含めたサービスモデルの確立です。また、本事業では、子どもたちが「安心できる居場所」として、尊敬できる&ロールモデルになりうる大人との出会いが重要であり、継続的にかかわってくれる社会人ボランティアの存在が不可欠です。彼らが安心してボランティア活動を継続できるようなしくみの整備にも注力して取り組んでいきます。

今後とも引き続いてのご支援をいただけますと幸いです。

【団体名】

認定NPO法人 浜松NPOネットワークセンター

【URL】

<http://www.n-pocket.jp>

ブログ「ぼけっとのなかみ」2 <http://blog.canpan.info/n-pocket/>

【申請事業名】

はままつ子どもの学び支援&セーフティネット強化事業2019

【メッセージ】**団体の紹介**

1998年に設立した民設民営の市民活動支援センターです。2000年から多文化共生事業で子どもの教育に取り組みはじめ、そこから派生して2016年に子どもの貧困に着手しました。また、障害者の就労、ICTによる社会参加支援、市民協働の公園づくりなど、ソーシャルインクルージョンをキーワードに取り組んでいます。

助成を受ける事業の紹介

ベネッセの助成金をいただき3年目になります。この2年は団体間の課題共有や連携を進めることができましたが、一方で増えつつある支援の「場」に対して適切な人材が足りていないという課題があります。

そこを解決していくために、引き続きアウトリーチ型の学習支援の現場を持ちながら、学習支援人材のスキルアップと、効果的な学習支援モデルや支援ツールの開拓に取り組めます。

ポイントと抱負

社会に子どもを取り巻く課題を発信して、新たな支援者や支援資金の拡大に着手していく一年と考えています。

ベネッセの研修では、各地の団体の取り組みに学ぶことが多く、みなさんとお会いできることも楽しみにしております。